

仙台市みどりの基本計画2021-2030

計画の指標の達成状況等に関するデータ集



1. 杜の都の環境をつくる審議会で出たご意見
2. 計画の中間評価
3. みどりに関する新たな視点、本市のまちづくりの動向

1. 杜の都の環境をつくる審議会でご意見(中間見直しの着眼点として)

計画全般

- 仙台市みどりの基本計画では、健康・医療や福祉、教育、観光等の分野と連携している姿勢が、不明瞭である。
- これからますます過酷になっていく気象環境に対し、都市のみどりは人の命をも救うものとして強調するような表現はいかがか。
- 森記念財団発行『日本の都市性評価2024』の中で、仙台市が総合順位を昨年よりも落としており、2024年版の発行にあたって見直された環境分野が影響しているように受け取れる。(環境分野の評価軸となっている)「水辺の充実度」が都市の快適性に影響する、という視点は頷けるものがあり、仙台市でも計画内の「みどりで選ばれるまち」の項目で触れるなど、意識して良いのではないか。
- 優先順位をつけた戦略的な緑地の保全について、盛り込む必要があると考える。
- (指標1:緑被率について)亜熱帯化が進む日本にとって、日影(緑陰)の存在は重要。緑被率を指標としているが、日影を生成する樹木の高さや接道部緑化の厚み(道路⇄建物までの奥行)も重視したい。
- (指標2:都市計画区域内の都市公園等の市民一人当たり面積について)都市公園法による標準は、10㎡／人であり、維持管理を含めると現状維持でも十分ではないか。エリアによっても偏りがあるのであれば、それを解消すべき。
- (指標4:身近なみどりに対する市民満足度について)簡易的な内容で良いので、年1回の頻度で市民意識を把握したほうが良い。
- 指標3と4(満足度に関する指標)の内訳として指標1、2(みどりの量に関する指標)に関連する満足度も表現されると分かりやすい

1. 杜の都の環境をつくる審議会でご意見(中間見直しの着眼点として)

方針1 みどりと共生するまち

- 公有地・民有地問わず、雨水流出抑制効果を数値的に示せるような指標を長期的に検討してほしい。
- 雨水の地下浸透量に関する目標や戦略が不明瞭だと感じた。雨庭の整備による雨水浸透効果や、雨庭が市民の生活に直結することを示すような方針で進めていただきたい。
- 「何力所、何㎡整備した」だけではなく、想定数量でも構わないので、可能ならばアウトカム指標も用いた方がよい。
- 身近な生きもの(9種)の認識度調査は、簡易的な内容で良いので、年1回の頻度で調査したほうが良い
- 松枯れ等被害の全体ボリュームや、過年度からの被害傾向に対してどのくらいの量を処理しているのか、より効果的な取り組みに向けた検討ができるような数字で報告をしていただくとよい。
- 建築物等緑化ガイドラインの作成により、郷土種の活用がどれだけ促進されたのか、フォローアップを行っていただきたい。
- 多自然河川づくりについて植物相の変化、生物種数の前後比較、景観の連続性等、アウトカム指標を用いていただくとよいのではないか。
- 多自然河川づくりについて実績内容がよくわからず、評価との関係が理解できない。規模や延長などを実績(累計)に表現してもよい
- 本来、生物多様性の向上は、仙台市内の生物種の中から目標種を選定し、目標種に対する取り組みによる実績や成果を踏まえ評価すべきなので、現状の生き物観察会等の開催回数という評価項目を改善いただきたい。
- 多様な環境指標が生まれ、都市環境であってもビルの省エネ性能や壁面緑化、外構の緑化、野生生物への目配り、市民や働く人たちのウェルネスなど、様々な視点があり、それらのトータルの上で構成されていることを考える目を養っていく必要がある単一の視点での別々のツアーではなく、総合的な視点で「環境」を考えられるツアーの企画があるとよい。

1. 杜の都の環境をつくる審議会でご意見(中間見直しの着眼点として)

方針2 みどりで選ばれるまち

- 仙台市全体として最適な公園として機能させていくためには、公園間の連携(役割認識や特徴をマネジメントする)があると良いのでは。
- 青葉山公園や西公園のプール跡地では大型遊具等を整備したほうが良いと考えるが、そのような計画はあるか
- 公園の周辺エリアまで視野を持って運営してくれるような主体に公園の運営をしてもらう観点をもってほしい。公園の再整備計画を策定する際は、エリアマネジメント団体を含め広く市民の意見を取り入れてほしい。また再整備について広く認知してもらえるような効果的な広報に取り組んでいただきたい
- 認定制度の導入や助成事業は、高機能オフィスに求められる「質の高い緑化」を振り返りやすい具体的な施策にしており、とても評価できると思う。せんだい都心再構築プロジェクトの振り返りや評価は担当課でもされていくと思うが、こうした実績については、課をまたいで情報発信をしても良いのではないか
- 生物多様性に関する記述が希薄であるとする。「生物多様性地域戦略の推進」との連動等により力を入れてほしい
- みどりの公開性も指導、評価できるとよいのではないか
- 仙台の旧来の自然植生ではなく、より南方に分布する種が今後の最適解になるかもしれない。そうした種を、ガイドラインなどで優先的に導入するなどしてはいかがか。
- 緑化ガイドラインでの指導によって緑化の質がどの程度高くなったか、フォローアップしてほしい。
- 新市役所本庁舎は、仙台市の公共施設緑化のモデル、また日本一みどりが充実した庁舎となり、全国から見学に来てもらえるような緑化を行ってほしい。
- 優良建築物緑化認定制度の認知度の向上に努めてほしい。
- 優良建築物緑化認定制度とグリーンインフラ助成制度の一体的な利用の推奨について検討いただきたい。

1. 杜の都の環境をつくる審議会で出たご意見(中間見直しの着眼点として)

方針3 みどりを誇りとするまち

- 街路樹充実については、街路樹の「高さ」や、植栽帯の厚みを重視する方向性の盛り込みがあるとよい。
- 特に高齢化が進む郊外の市街化区域において、根上がりの舗装の隆起は深刻に感じる。維持費をかけて更新をしても効果が持続しづらく、実際どのくらいの街路樹が更新を求められているのか、現状把握や優先順位について審議会で話し合いを始めても良いのではないか。
- 「国の史跡である城」×「国の天然記念物である森」の組み合わせは国内でも珍しく、もっと価値をアピールすべき。海外の観光客が青葉山にもやってくるが、そうしたインバウンドへの対応が必要。各施設管理者ごとの情報発信になっていて、青葉山エリア全体を紹介するマップ等がない。歴史ファンにも自然ファンにも、インバウンドにも訴求するプレゼンテーションが有益と考える。
- 杜の都名木・古木巡りや「街路樹ツアー」のような市民向けのツアーで、行政の情報が共有されていないのが非常に残念であると考えていたので、検討していただきたい。
- 杜の都名木・古木巡りや「街路樹ツアー」のような市民向けのツアーで、行政の情報が共有されていないのが非常に残念であると考えていたので、検討していただきたい。
- 居久根の現状(数や分布)を把握し、保全・活用に関する全体的な戦略を持つと良い。

1. 杜の都の環境をつくる審議会でご意見(中間見直しの着眼点として)

方針4 みどりとともに人が育つまち

- 公園での子供の遊び声等に対し不寛容な意見も最近は聞こえるようになってきた。このプロジェクトの中で、ハード的な解決が図れば良いと考えている。
- パイロット事業として実施した菊田町の2公園での機能再編については、再編により得られた市民の評価を把握すべきである。
- 人口密度が低下した地域における公園についての統廃合なども検討すべきでは。
- 「(7)-c子どもの遊び環境の充実」、「(7)-eプレーパークの拡充」と目標が違うため実績(となる公園)が重複しても問題ないが、一覧表で情報化・資料化するのであれば、公園名を入れた方が(事業同士の)重複があるのかないのか理解できて良い。
- 「ウォーキングイベント」=「ウォーキングコースの設定」なのかどうか判然としない。
- 事業概要に支援内容の中身がもう少し表現されると実績内容の理解が深まる。

1. 杜の都の環境をつくる審議会でご意見(中間見直しの着眼点として)

方針5 みどりを大切にするまち

- 「施設マネジメントの推進」の成果指標(公園施設改修件数)については、既に目標値に達しているので、目標を見直した方が良い。
- 今の照明は植物にとって光が強いと考えている。光を弱くする、間接照明の採用、調光、稼働時間の調整といった対策も必要なのではないか。
- 目標と実績がシンプルで分かりやすいため、経年的な件数実績が分かっていたら目標や累計としての情報として反映できるのではないか。
- みどりの魅力・情報発信の強化については、アウトカムの指標を設定したほうが良い。
- 成果目標と実績があるが、ふるさとの杜再生プロジェクトの各年度欄に人数が連動している必要があるのではないか。
- 各種イベントの開催という目標が抽象的だが、機会創出に意義があるのであれば、実績にある事業などを今後も見込み、修正可能であれば目標を件数や人数で表現してもよいのではないか。
- 晩翠通の歩道上に、戦災樹木がある。そのような樹木の情報も何らかの形で発信できるとよい。

2. 計画の中間評価

▶▶▶▶▶ 計画全体の指標の達成状況

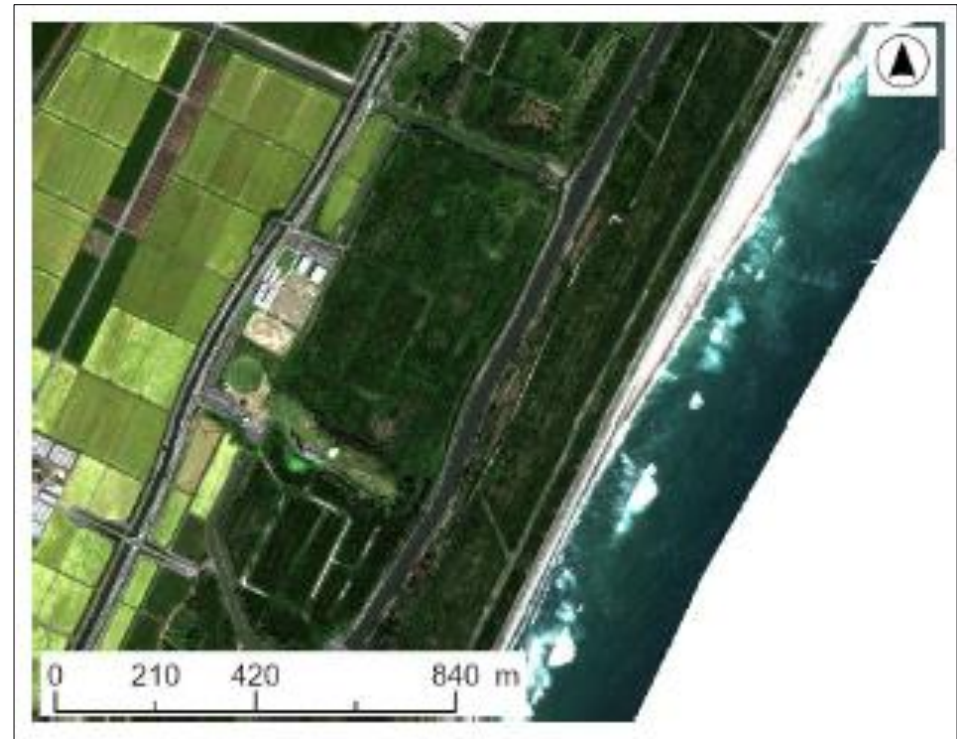
指標の概要		基準値 (R1)	目標値 (R12)	R6年度実績 (括弧書はR5実績)
指標1	市域全域の緑被率	78.4%	維持・向上	78.7%
指標2	都市計画区域内の 都市公園等の市民一人当たり面積	18.6㎡	20㎡	(18.9㎡)
指標3	百年の杜づくりに対する市民満足度	69.5%	現在より 向上	75.6%
指標4	身近なみどりに対する市民満足度	34.7%	40%	43.4%

- 1. 市域全域の緑被率は維持されている
- 2. 都市公園等の市民一人当たり面積は、増加しているものの、目標達成に向けて更なる整備・供用の推進が必要となる
- 3. 百年の杜づくりに対する市民満足度は、3年連続で基準値よりも高い評価を受けており、本市の施策のなかで最も満足度が高い
- 4. 身近なみどりに対する市民満足度は、基準値よりも高くなっている

▶▶▶▶▶ 計画全体の指標の達成状況

指標1 市域全域の緑被率について

市街化調整区域の緑被率の増加事例



・海岸防災林の再生に伴い、沿岸部の緑被率が大きく増加する等、市街化調整区域の緑被率は増加した

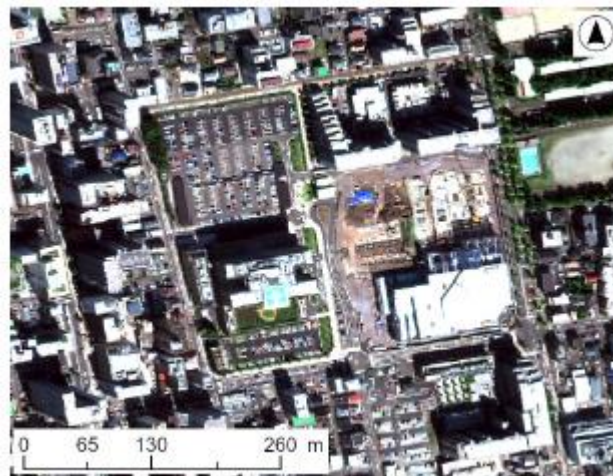
計画全体の指標の達成状況

指標1 市域全域の緑被率について

市街化区域の緑被率の減少事例



東北大学雨宮キャンパス跡地(R1年度)



東北大学雨宮キャンパス跡地(R6年度)



泉区本田町(R1年度)



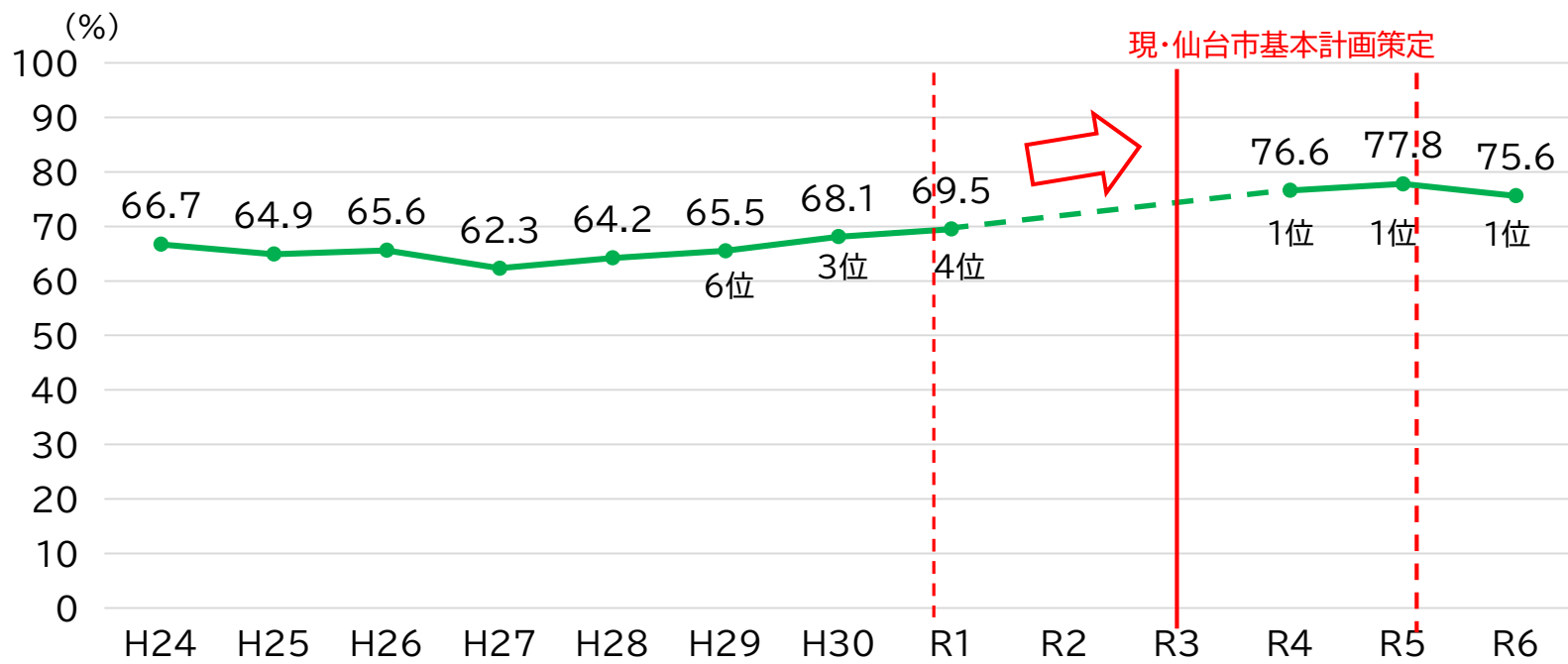
泉区本田町(R6年度)

- 草地として算出されていた東北大学雨宮キャンパス跡地の開発が進んだことが主な原因で、仙台都心部緑化重点地区の緑被率が減少した
- 宅地開発などが原因で市街化区域の緑被率が減少した

指標3 百年の杜づくりに対する市民満足度

百年の杜づくりに対する市民満足度の経年変化

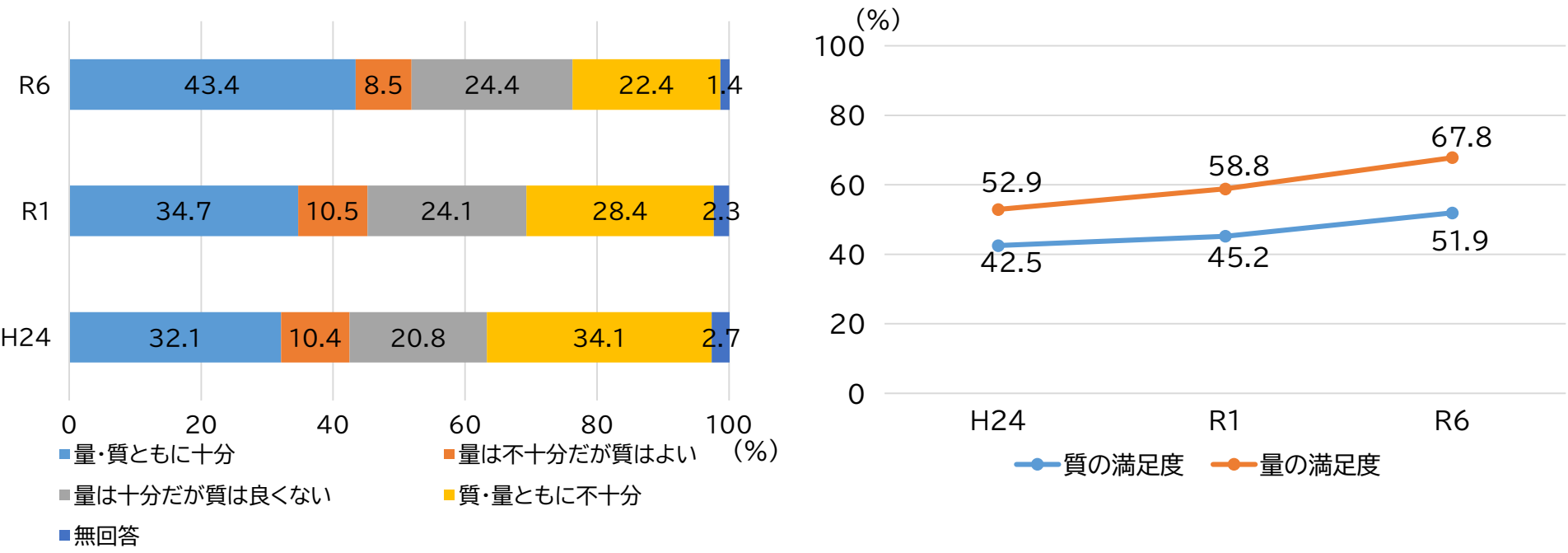
※仙台市市民意識調査(旧 施策目標に関する市民意識調査)の結果をもとに作成



・R1年度からR4にかけて満足度が上昇し、R5に満足度が過去最高になった
⇒全国都市緑化フェアによる緑化の機運の高まりが、市民意識に影響を与えたと推察される

指標4 身近なみどりに対する市民満足度

身近なみどりに対する市民満足度の経年変化 ※みどりの市民意識調査(H24, R1, R6)の結果をもとに作成



- ・量と質ともに十分と回答した割合は、令和元年度から令和6年度にかけて大幅に増加
- ・質に対する満足度は、量に対する満足度と比較し、上昇率が低い
 (「杜の都を代表するみどり」, 「身近な公園」・「街路樹」でも同様の傾向)

指標4 みどりの市民意識調査における自由記述の記載内容の分類

市全体 (杜の都)の みどり	都心部の みどり	住宅地の みどり	郊外の みどり	公園	街路樹	民有地・ 公共施設 緑化	みどりの 普及啓発・ 協働	その他
98	46	14	29	75	127	35	50	77

- ・自由記述の件数は、街路樹, 市全体(杜の都)のみどり, 街路樹の順に多かった。
- ・全体として、みどりの維持管理に関する苦情・陳情の記述が多く、街路樹に関する記述は、植樹帯の除草, 銀杏の実, 根上がりに関する記述が多かった。

方針1 みどりと共生するまち

指標の概要	基準値 (R1)	目標値 (R12)	R6年度実績
公園緑地等における浸透施設整備により雨水流出抑制が図られた面積	—	10年間で 87,000㎡増	53,495㎡
身近な生き物(9種※)の認識度	ツバメ75.2% ほか	全ての種で現在より 向上	3種※で向上

※調査対象種(太字は認識度向上種)
ツバメ, カッコウ, モンシロチョウ, アゲハチョウ, セミ, ホタル, トンボ, カブトムシ・クワガタムシ, ウマオイ

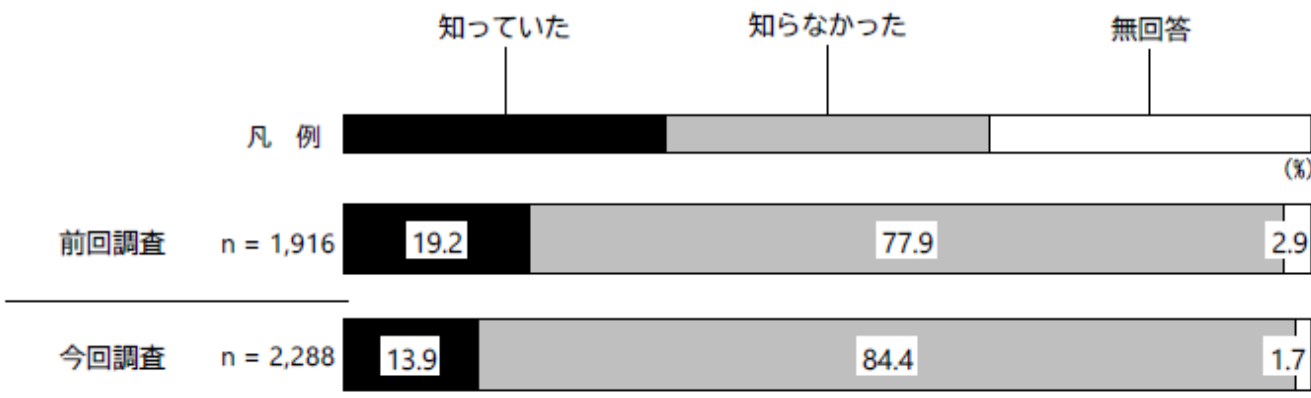
- 1. 雨水流出抑制機能を有した公園整備が, 順調に進んでいる
- 2. 身近な生き物(9種)の認識度は, 3種向上している

方針1 みどりと共生するまち

グリーンインフラに関する認識度

問 40 あなたはグリーンインフラという言葉を知っていましたか。

(あてはまる番号 1 つに○)

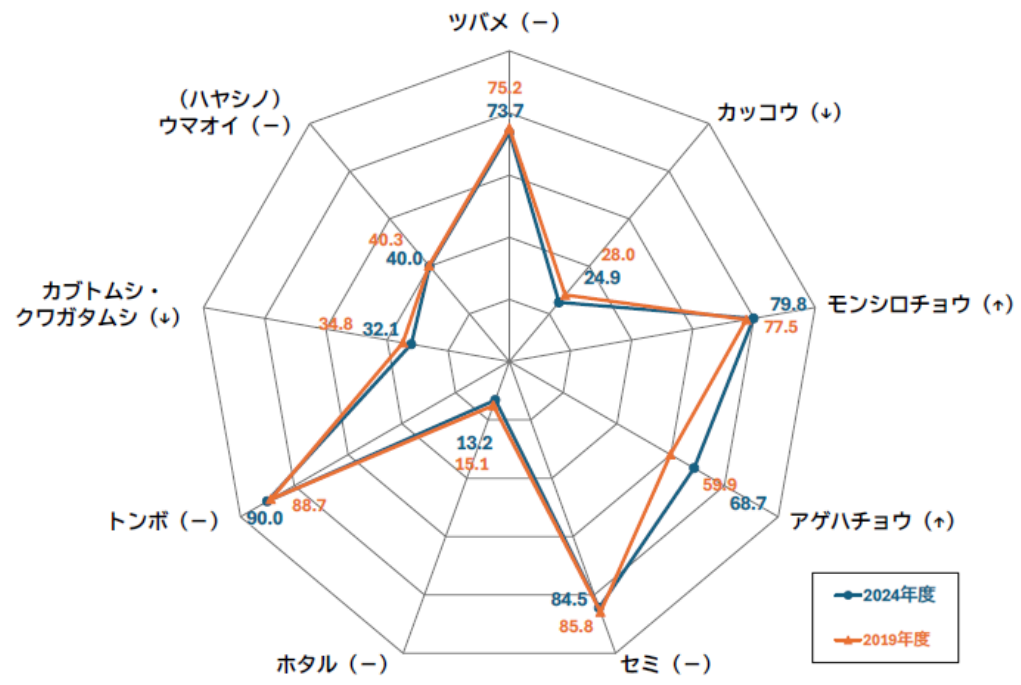


※令和6年度みどりの市民意識調査より抜粋

- ・グリーンインフラの認知度が低下しており, 市民にグリーンインフラの考え方が定着していないことがうかがえる
- ⇒市民や企業に対してグリーンインフラについて周知を図るとともに,グリーンインフラの推進による効果を市民の目に見える形で示す必要がある

方針1 みどりと共生するまち

生き物認識度調査の結果



【凡例】
 2019年と2024年の差
 (-): ±2%未満
 (+): + 2%以上
 (-): - 2%以下

※令和6年度生き物認識度調査報告書に基づき作成

【認識度の変化に関する推定要因】

- カッコウ
 ⇒カッコウが托卵するヨシキリやモズの繁殖環境の草地・疎林等の減少や、気候変動による飛来時期や餌動物の発生時期のずれなどが生育状況に影響している可能性がある
- カブトムシ・クワガタムシ
 ⇒日常生活の中で姿を見る機会が少ないため、能動的に自然に親しむ機会を創出する必要があるが、その機会が減少している可能性がある

方針2 みどりで選ばれるまち

指標の概要	基準値 (R1)	目標値 (R12)	R6年度実績 (括弧書はR5実績)
新たに民間活力を導入する公園施設数	—	10年間で 4か所	(2箇所※)
仙台都心部緑化重点地区における ①緑被率 ②平均緑視率	①14.2% ②31.0%	①14.3%以上 ②33%	①11.7% ②30.2%

※実績対象公園：青葉山公園(追廻地区), 高砂中央公園

1. 新たに民間活力を導入している公園施設数を順調に増やしている
2. 仙台都心部緑化重点地区内の緑被率および平均緑視率は、基準値より減少している

方針2 みどりで選ばれるまち

新たに民間活力の導入を見込んでいる都市公園の実績一覧表

公園名	関連事業番号	関連事業名	重点事業	上半期の目標	実績
西公園	142	西公園の官民連携による運営管理の推進		民間パートナーとの連携による運営管理につながる社会実験等の実施	事業者との意見交換
青葉山公園	32	青葉山公園整備事業	○	指定管理業務開始	R4年度指定管理事業者決定 R5年度より指定管理業務開始
肴町公園	66	肴町公園再整備事業	○	再整備計画の策定と再整備工事着手	住民間の関係構築に時間を要しており、事業に遅れ(正直ほぼ動いていない)
	82	都心部の公園を活用したエリアマネジメントの推進	○	公園及び公園周辺エリアにおける、まちづくり協議会等と連携した地域主体の利活用の実施	
榴岡公園	77	榴岡公園の民間事業者による新しい公園サービスの提供	○	民間パートナーとの連携による運営管理による新たな公園サービスの提供 公園及び公園周辺エリアにおける、まちづくり協議会等と連携した地域主体の利活用の実施	社会実験の実施 Park-PFI公募者なし
	82	都心部の公園を活用したエリアマネジメントの推進			
南小泉交通公園	112	交通公園等機能特化型公園整備事業		既存交通公園の再整備・管理運営方法の見直し検討	サウンディング準備中
高砂中央公園	35	高砂中央公園整備事業		(管理運営に関する目標は特になし)	R5年度より指定管理業務開始 R6年度より指定管理業務開始
海岸公園 (藤塚地区)	99	貞山運河の利活用事業	○	(管理運営に関する目標は特になし)	Park-PFI公募者なし

- ・指定管理制度による公園管理運営は順調であるものの、エリアマネジメント団体との協働による公園管理運営やPark-PFI制度の活用の実績に伸び悩み
⇒民間が主体(自走)となるような制度を活用した公園管理運営と、周辺エリアと一体となった公園運営に課題あり
- ・公園本来の機能を保持しながら、民間事業者の柔軟な発想を許容できるような条件を設定するほか、1公園に複数の管理運営制度を組み合わせ活用するなど、民間事業者が経済的に管理運営しやすい方法を検討する必要がある

方針2 みどりで選ばれるまち

緑視率の増加事例

西公園通



緑視率17.3%



緑視率44.7%



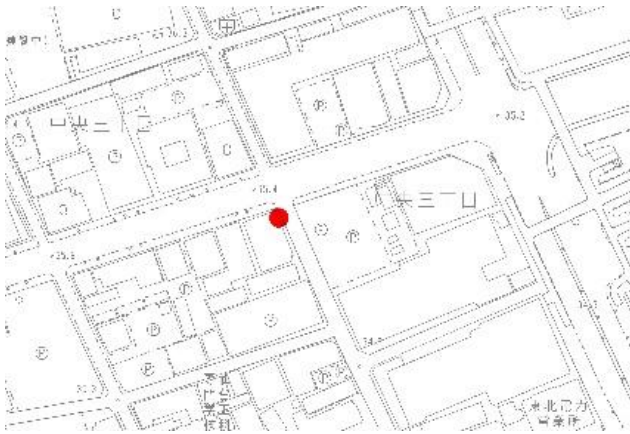
南町通



緑視率6.8%



緑視率10.5%



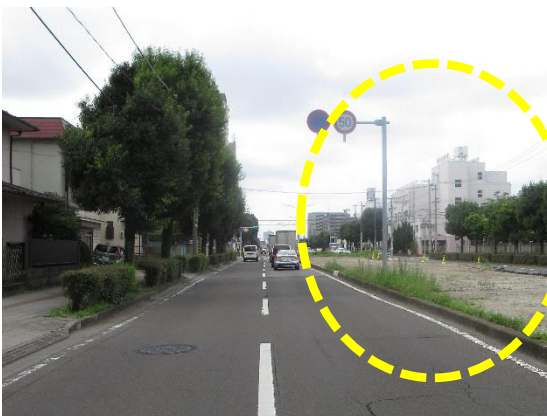
方針2 みどりで選ばれるまち

緑視率の減少事例

宮沢根白石線



緑視率37.4%



緑視率22.7%



- ・民有地における沿道部緑化が、緑視率の上昇に与える影響が大きい
⇒建築物緑化ガイドラインを活用しながら、民間事業者による沿道部緑化を促進させる必要がある
- ・仙台市都心部緑化重点地区における仙台駅東側の緑視率は依然低い状態となっている
⇒樹木の良好な生育環境が確保できない中で、街路樹をどのように充実させていくかが課題である

方針3 みどりを誇りとするまち

指標の概要	基準値 (R1)	目標値 (R12)	R6年度実績 (括弧書はR5実績)
街路樹の再生(更新路線数)	—	10年間で 10路線	(0路線)
仙台ならではのみどりを活用した(名木・古木めぐりなど) イベント開催件数	10回/年度	10回/年度以上	10回/年度 以上 4年達成

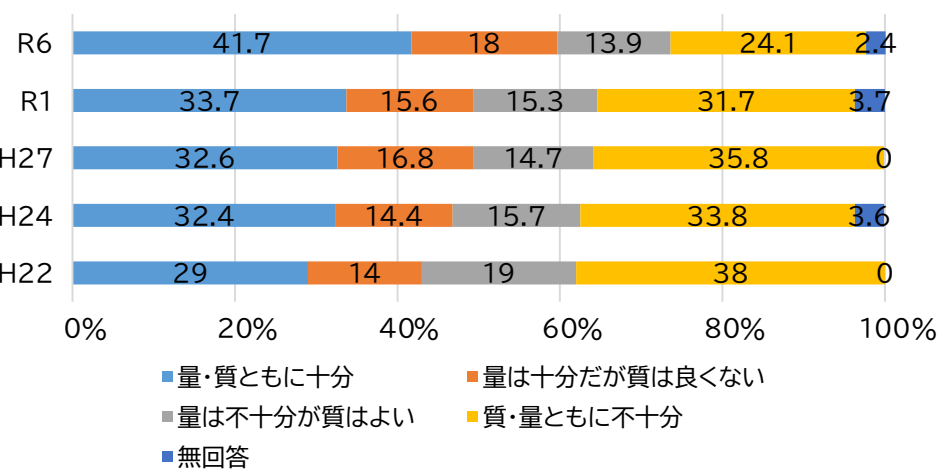
- 令和5年度までの街路樹更新路線数は0路線であった
- 仙台ならではのみどりを活用したイベントを毎年目標値以上実施している

方針3 みどりを誇りとするまち

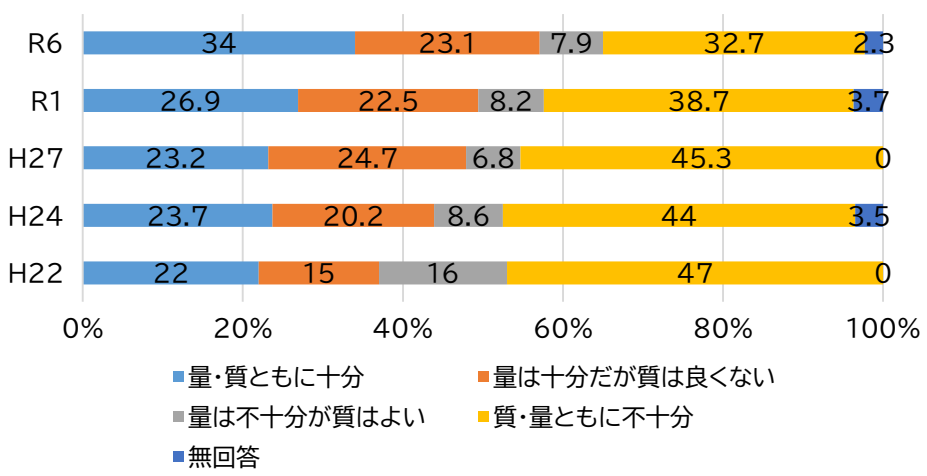
街路樹に関する市民意識調査の経年変化

※みどりの市民意識調査(H24, R1, R6)および
市政モニターアンケート(H22, H27)の結果をもとに作成

都心部の街路樹の満足度



住宅地の街路樹の満足度



- ・「百年の杜づくりに対する満足度」、「身近なみどりに対する満足度」と同様に、街路樹に関する市民満足度は、令和元年度から令和6年度にかけて大幅に上昇しており、市民にとって誇るべきみどりとしての認識が高まっている
- ・質に対する満足度は、量に対する満足度と比較し、上昇率が低い。また、住宅地の街路樹は、量に対する満足度は都心部と大きさ差はみられないものの、質に対する満足度は都心部との乖離が大きい
- ・みどりの意識調査の自由記述欄のうち、街路樹の根上がりや剪定に関する要望に関する意見の割合が高かった
⇒車両等での通行者と、沿道・近隣住民との間に、街路樹に対する意識が異なることが推察され、沿道・近隣住民が街路樹に対して愛着が持てるよう、適正な街路樹の配置・維持管理が必要である

方針4 みどりとともに人が育つまち

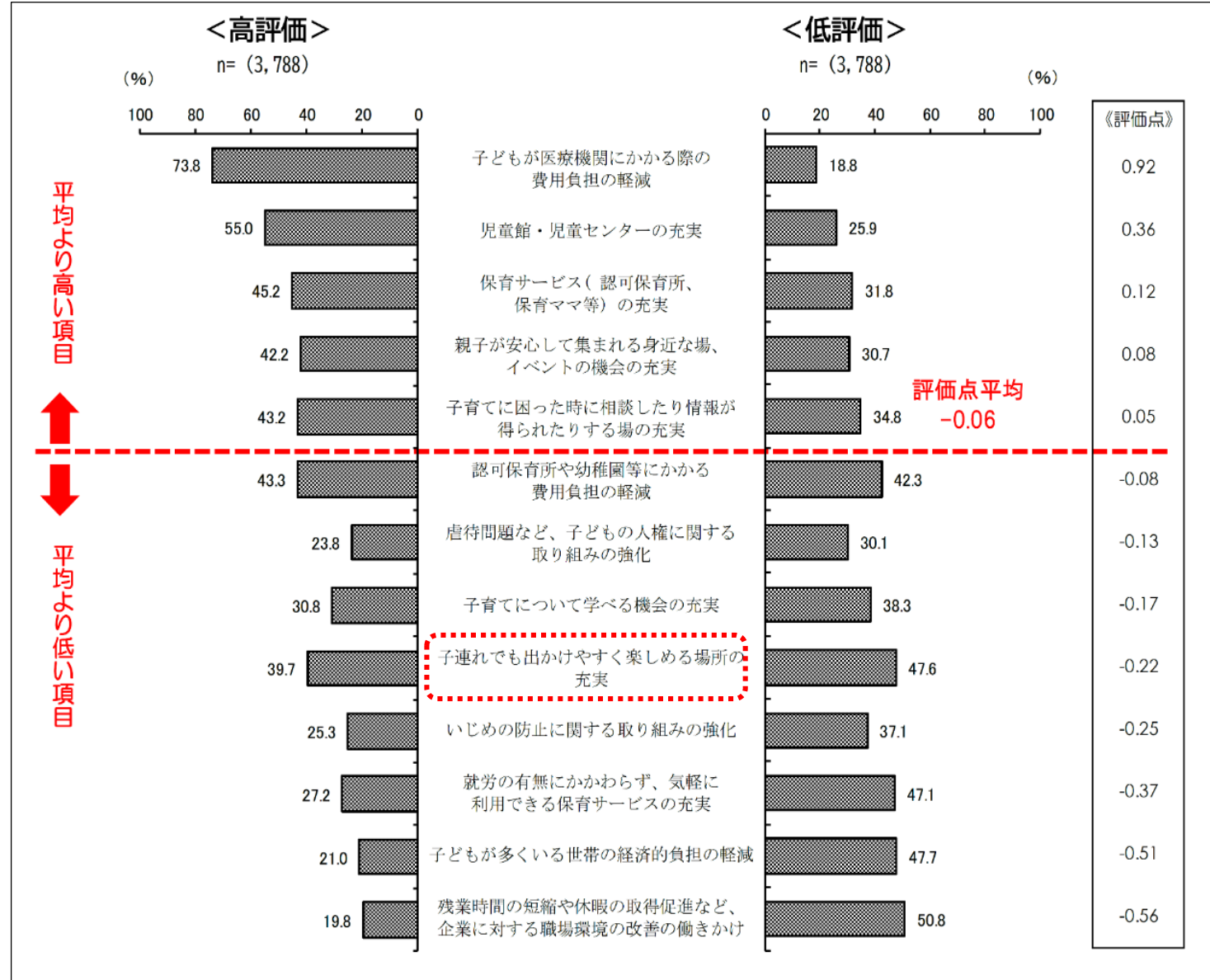
指標の概要	基準値 (R1)	目標値 (R12)	R6年度実績
身近な公園の役割が子どもを遊ばせる場所と回答する市民の割合の増加	62.6%	現在より向上	63.8%
コミュニティを育むみどりの市民活動団体の結成数	1,358団体	1,460団体	1,408団体※

※内訳：緑の活動団体28団体, 公園愛護協力会1,359団体, 河川愛護会21団体

1. 身近な公園を子どもを遊ばせる場所としている市民の割合は, やや上昇している
2. 市民活動団体の結成数コミュニティ活動の環境整備が着実に進んでいる

方針4 みどりとともに人が育つまち

子どもの遊び環境に関するアンケート ※仙台市子ども・子育てに関するアンケートより抜粋



・子連れで楽しめる場所が不十分である認識が強い

⇒身近な公園の中身を充実させることが課題解決策の一つであり、公園における子どもの遊び環境の充実を引き続き推進していく必要がある

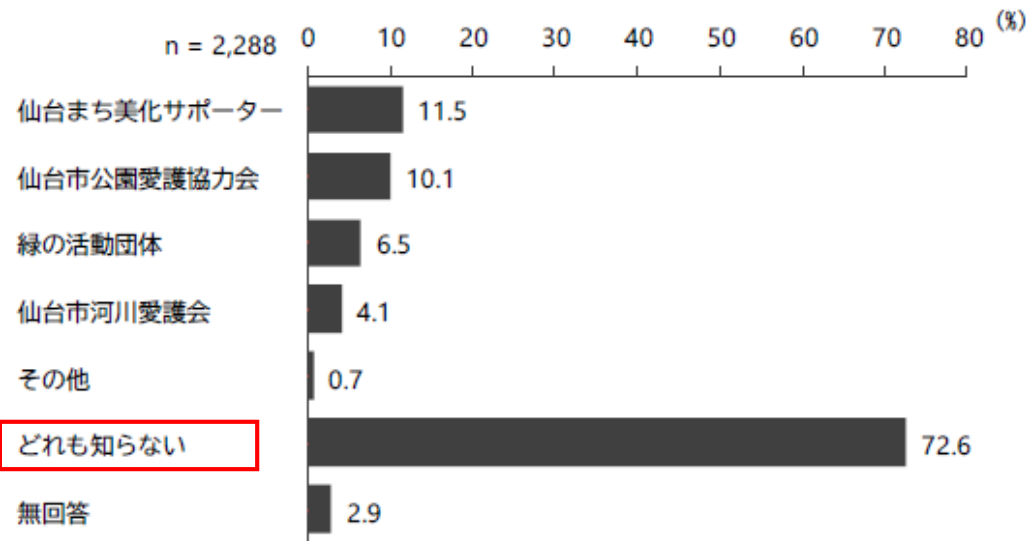
方針4 みどりとともに人が育つまち

みどりに関する活動団体の認識度

※令和6年度みどりの市民意識調査より抜粋

問 37 みどり豊かなまちづくりのために、仙台市内にみどりに関する様々な活動団体が結成されています。あなたが知っている、みどりに関する活動団体はどれですか。

(あてはまる番号すべてに○)



・みどりによりコミュニティを育むための受け皿はあるものの、団体の存在が認識されていない

⇒コミュニティ形成の環境整備と共に、各団体の認識を高める事業に取り組み、コミュニティの活性化を図る必要がある

方針5 みどりを大切にするまち

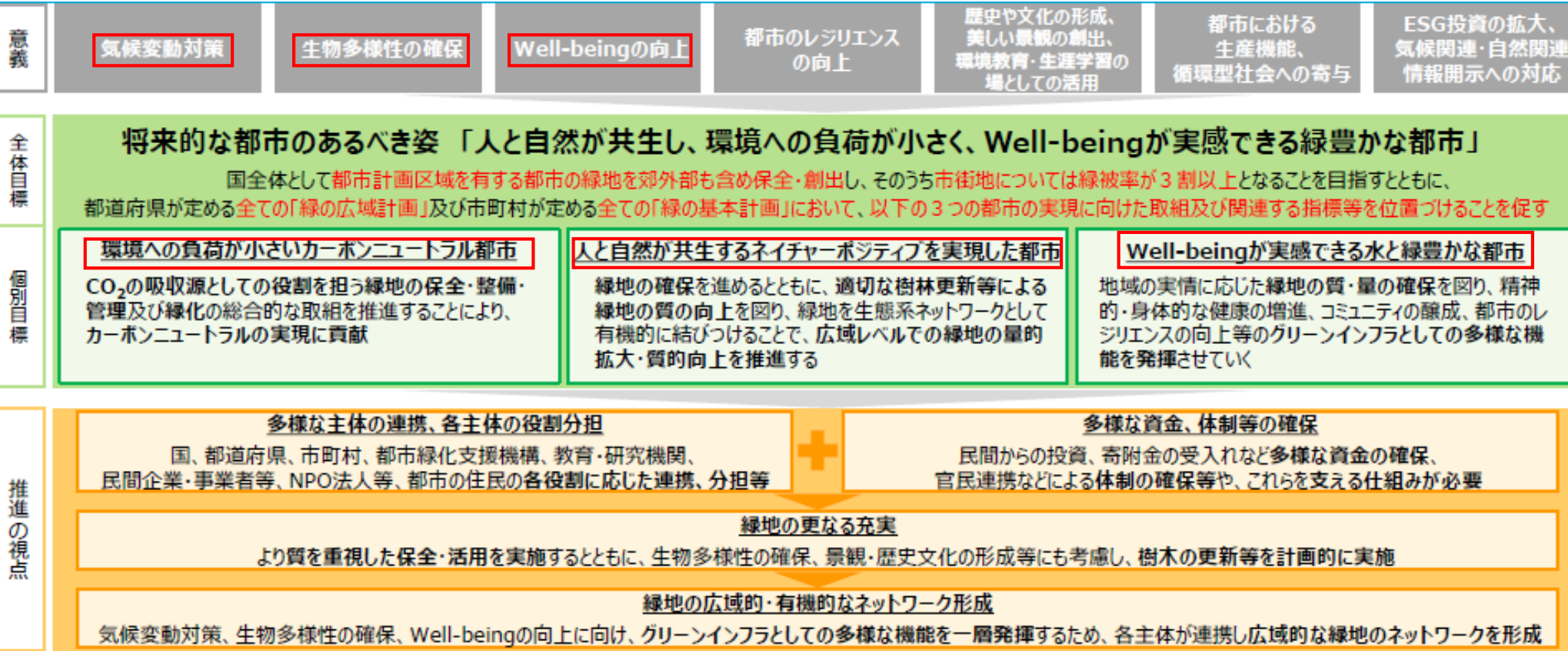
指標の概要	基準値 (R1)	目標値 (R12)	R6年度実績 (括弧書はR5実績)
公園施設改修件数	—	10年間で 延べ1,200公園	(1,644公園)
ふるさとの杜再生プロジェクトのイベント参加者数	—	10年間で 延べ2,000人	(1,526人)

- 公園施設総合改修計画に基づく公園施設改修件数が、上半期の時点で全計画期間の目標値を達成した
⇒総合改修計画が策定される前に設定した目標値であることから、令和5年度に策定された
総合改修計画の内容をふまえ、指標を設定しなおす必要がある
- ふるさとの杜再生プロジェクトのイベントの延べ参加人数が予定を上回っている
⇒当初、過去の「育樹会」の参加者数をもとに目標値を設定していたが、計画開始後、
育樹会以外に、他分野と連携したプログラムも企画・開催したことによる

3. みどりに関する新たな視点、本市のまちづくりの動向

都市緑地法の改正(「緑の基本方針」の策定。令和6年11月施行)

- 都市緑地による **気候変動対応**, **生物多様性確保**, **幸福度(Well being)** の向上等の課題解決に向けて, **緑地の保全及び緑化の推進に関する基本的な方針(緑の基本方針)** を国が策定することとなった。
- 市町村が策定する緑の基本計画は, 緑の基本方針に基づき策定する必要がある。



3. みどりに関する新たな視点、本市のまちづくりの動向

▶▶▶▶▶ グリーンインフラ推進戦略2023(令和5年9月策定)

- グリーンインフラの概念が定着し、本格的な実装フェーズへ移行するとともに、ネイチャーポジティブやカーボンニュートラル・GX等の世界的潮流等を踏まえ、前戦略(令和元年7月)を全面改訂、新たな戦略を策定。
- 「①ネイチャーポジティブ・カーボンニュートラル等への貢献」,「②社会資本整備やまちづくりの質向上, 機能強化」,「3SDGs, 地方創生への貢献」をグリーンインフラの意義としている。



3. みどりに関する新たな視点、本市のまちづくりの動向

公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言(令和4年10月提言)

- 都市公園は、ポストコロナの新たな時代において、人中心のまちづくりの中で個人と社会の「Well-being」の向上に向け、地域の課題や公園の特性に応じ、多機能性のポテンシャルを更に発揮することが求められる。
- 新時代の都市公園は、パートナーシップの公園マネジメントで多様な利活用ニーズに応え、地域の価値を高め続ける「使われ活きる公園」を目指すべきとし、提言では3つの必要な変革と、重点戦略等を示している。

都市公園新時代 ～公園が活きる、人がつながる、まちが変わる～

人中心のまちづくりの中でポテンシャルを最大限発揮するため、パートナーシップの公園マネジメントで多様な利活用ニーズに応え、地域の価値を高め続ける「使われ活きる公園」を目指す

「使われ活きる公園」の実現に必要な
3つの変革

都市アセットとしての利活用
まちの資産とする
公園のストックを地域の資産と捉え、能動的・機動的取組で地域の価値やシビックプライドを高揚する

画一からの脱却
個性を活かす
公園の特性に応じたルールをオーダーメイドでつくり、公園の楽しみ方を広げ、新たな文化を創造する

多様なステークホルダーの包摂
共に育て共に創る
パートナーシップの公園マネジメントを実践し、共有資産である公園を核にまちづくりへの関心を高める

都市公園新時代に向けた重点戦略～3つの戦略と7つの取組～

重点戦略【1】 新たな価値創出や社会課題解決に向けたまちづくりの **場** とする

公園が新たな価値創出や社会課題解決の場となるよう、NbS(自然を基盤とした解決策)の視点からグリーンインフラとしての保全・利活用に計画的に取り組むとともに、市民、事業者等による利活用の状況を管理運営や再整備にきめ細かく反映し、居心地が良く誰もが快適に過ごせる空間づくりを推進。

①グリーンインフラとしての保全・利活用

②居心地が良く、誰もが安全・安心で、快適に過ごせる空間づくり

○グリーンインフラを導入した緑の基本計画(公園の整備・管理方針を含む)の策定

○緑の基本計画等に基づく自然環境の有する多機能性の戦略的な保全・利活用

○緑の充実や再生可能エネルギーの活用等による公園のカーボンニュートラル化

○公園の利活用状況の点検と点検結果を踏まえた公園再生

○公園利用者の安全・安心の確保(防災・減災、バリアフリー、老朽化対策、防犯、暑熱対策等)

○政策間連携による社会課題対応型の機能向上(健康、福祉、子育て、教育、地域経済等)

重点戦略【2】 しなやかに使いこなす **仕組み** をととのえる

公園は誰でも自由に使える空間という基本的な認識の下、多様化する利活用ニーズに応え、さらには公園が機動的なまちづくりの核となるよう、公園の特性等に応じた利用ルールの弾力化、新たな可能性を探る実験的な利活用の推進など、公園を使いこなす仕組みを整理。

③利用ルールの弾力化

④社会実験の場としての利活用

○画一的な利用ルールの見直しの促進(公園条例の方向性や選択肢の提示等)

○公園での社会実験の事例・成果の共有

○利用者等の合意形成による公園毎のローカルルールづくり(協議会の活性化)

○多様な主体による幅広いテーマの社会実験を円滑に進めるための仕組みづくり(パークラボ)

重点戦略【3】 管理運営の **担い手** を広げ・つなぎ・育てる

公園管理者としての体制確保・技術継承、地域との連携等に留意しつつ、多様な主体の参画を促進するとともに、管理運営を安定的に行えるよう自主性・自律性の向上を図り、ステークホルダーとのパートナーシップにより公園の価値を共創。

⑤担い手の拡大と共創

⑥自主性・自律性の向上

○公園の特性等に応じた管理運営体制や役割分担の多様化

○公園の特性等に応じた管理運営体制(中間支援組織との連携等)

○利活用をミッションとする体制構築

○担い手の財政的な自立性の確保(計画的な収益事業実施、広告設置等)

○民間の管理運営への参画を更に促進する仕組みづくり

⑦公園DXの推進

デジタル技術とデータの利活用により、新たな時代の都市公園の実現を促進。

施策の方向性

○公園に関わるデータのデジタル化、オープンデータ化

○データを活用したEBPM

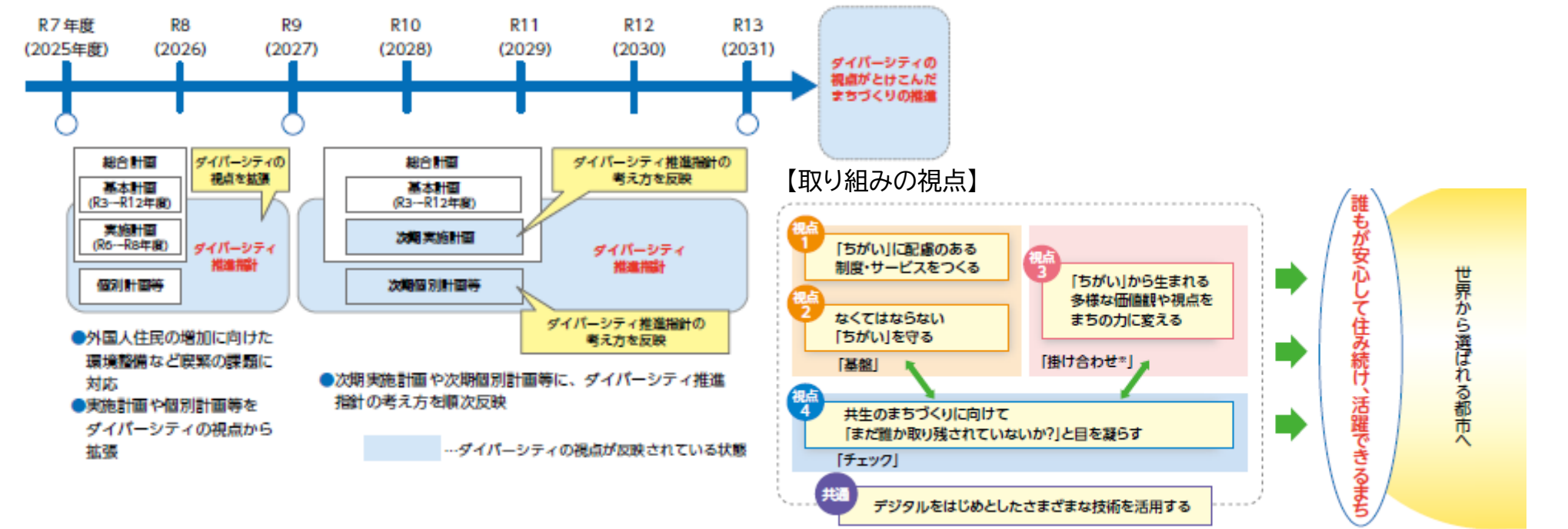
○DXによる新たなサービスを生み出す場としての活用

○デジタル技術、データを活用した、公園の利活用・管理運営の変革(リアルタイムデータを活用したサービス等)

3. みどりに関する新たな視点、本市のまちづくりの動向

▶▶▶▶▶ 仙台市ダイバーシティ推進指針(令和7年3月策定)

- 市民と行政の連携のもと、多様性を尊重した共生のまちづくりに取り組んできた背景を踏まえ「仙台市ダイバーシティ推進指針」を策定。さまざまな「ちがい」を受容してきた歴史や風土, 市民協働といった都市個性を土台とし, さらに発展させながら, 誰もが安全・安心に暮らし, 自分らしく活躍できるまちづくりを進めている。
- 本市の実施計画や, 個別計画等に掲げるまちづくりの視点や施策の方向性を, ダイバーシティの観点から拡張するものとして位置づけており, 令和12年度までに実施されるこれらの計画等の改定において, 本指針の考え方を順次反映することとしている。



3. みどりに関する新たな視点、本市のまちづくりの動向

杜の都環境プラン(令和6年3月改定)

- 令和3年3月に策定後, 国の温室効果ガス削減目標が引き上げられたことや, 国際社会において早期の対策が求められている状況等を踏まえ, 温室効果ガス削減目標の見直しや, 目標の達成に向けた施策の拡充等を行った。
- 令和7年度に計画の中間評価を行う。

せんだいこども若者プラン(令和7年3月策定)

- 「こども・若者が自分らしく幸せに生きられるまち」, 「みんなで支える子育てが楽しいまち」の考え方でまちづくりを進める。
- 基本施策として「多様な体験・学習機会の充実」, 「遊びの環境の充実」を盛り込む。

3. みどりに関する新たな視点、本市のまちづくりの動向

▶▶▶▶▶ 仙台市観光戦略(令和7年3月策定)

- 観光を基軸とした仙台の成長を目指す。「次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化」、「Sendai Urban Resortの推進」等、本市のみどりを活用するプロジェクトを推進する。

概要版

仙台市観光戦略2027~Into a New Era~

策定の趣旨

これまでの枠に捉われない「攻めの観光」を推進していくため、中長期的な視野も踏まえ、新たな財源を活用して思い切った投資をしていくことで、観光を基軸とした持続的な地域経済の発展を目指し策定します。

達成目標

2027年まで延べ宿泊者数 **680万人泊** 日本人延べ宿泊者数 610万人泊
将来に向けて**700万人泊** 外国人延べ宿泊者数 70万人泊

戦略期間

2025年度~2027年度

3つの視点

視点1

「来てもらう」

旅の目的となる、際立った訴求力のあるコンテンツの創出や、仙台ならではの歴史・文化、自然といったコアとなる観光資源の磨き上げを図り、国内外から認知され、わざわざ訪れたい都市を目指す。

視点2

「泊まってもらう」

体験の価値を重視する「コト消費」や、その時、その場所ですら味わえない「トキ消費」といった消費トレンドを捉えながら、滞在促進を図ります。また、仙台をベースキャンプとした東北の周遊を推進するとともに、観光目的以外の来訪者にも、宿泊や地域の消費につながる取り組みを進めます。

視点3

「また来てもらう」

性別や年代、国籍や障害の有無などを問わず楽しむことができる多様性の視点を踏まえながら、快適な受入環境を整備するとともに、地域全体でホスピタリティの向上を図り、リピーターの獲得を目指します。

6つの重点プロジェクト

3つの視点を踏まえ、6つの重点プロジェクトを推進します。
「次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化」は、本戦略期間の3カ年で完結するものではなく、伊達政宗公没後400年となる2036年をターゲットにするなど、中長期的な視点を持って施策を展開していくため、他のプロジェクトと異なる位置付けの、重点プロジェクト「0」と定めています。

0 次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化

中長期的な視点のもと、受け継がれてきた歴史・文化の魅力を次の世代に継承・発展させ、青葉山エリアの価値をさらに高めることにより誘客を促進します。
伊達文化の魅力や景観を活かした新たな観光資源の整備・検討
エリア内の観光資源の磨き上げと大河ドラマ誘致に向けた機運醸成
二次交通の強化、イベントの開催支援や広瀬川の水辺の整備に向けた検討

1 心弾むエモーショナル都市の創造

漫画・アニメやまつり、ナイトコンテンツなどの充実を図り、心がワクワクする魅力あふれる都市を目指す。
漫画・アニメを活用した企画の実施やコンテンツの集積
大規模イベントの開催・誘致やアート・エンタメなどによる賑わい創出
まつり・イベントの魅力向上と冬季の新たな大規模ナイトイベントの創出
ナイトイベントの長期開催、周遊につながるナイトコンテンツの造成促進

2 Sendai Urban Resortの推進

自然の恵みと触れ合う新たなコンテンツの創出やエリアの受入環境の充実を図ることで、何度でも訪れたい過ごし方を提案します。
西部エリアの観光スポットの整備と泉ヶ岳等におけるアドベンチャーツーリズムの推進
秋保地区、作並・定義地区の滞在環境整備
他分野と温泉を掛け合わせた新たな価値の創造
東部沿岸エリアの新たな体験コンテンツの創出
防災や減災を学ぶことができる教育旅行の誘致などの復興ツーリズムの推進
二次交通の充実などエリアの回遊性の向上

3 「Another JAPAN, SENDAI, TOHOKU」の発信

仙台・東北でしか出会えない魅力を体感してもらうため、プロモーションの強化や受入環境の充実を図ることで、国内外の誘客や広域観光を推進します。
アジア地域を対象としたプロモーションの強化
欧米豪などの市場を新たなターゲットとした首都圏からの誘客
VFR(友人・家族訪問)などの促進
東北ならではのモデルコースの造成や仙台を拠点とする東北日帰り観光の推進
仙台・東北各地のグルメを活用したプロモーション
大阪・関西万博を契機とした国内外からの誘客促進

4 +(プラス)観光の推進

ビジネスやMICE、スポーツ観戦等で来訪した方に対して観光を促し、宿泊や連泊、消費につながる取り組みを推進します。
青葉山エリアのMICE拠点としての機能強化
報奨旅行等の積極的な誘致
複数施設を利用して開催されるMICE助成制度の拡充とアフターMICEの周遊促進
閑散期の宿泊・連泊につながる取り組みの展開
イベント等に参加する来訪者の消費拡大につながる取り組み

5 持続可能な観光地域の形成

受入環境の整備を推進するとともに、リピーターの獲得などを通じた持続可能な観光都市の実現を目指します。
デジタルマーケティングの推進とCRMの導入
人材確保やDXなどの総合的支援や観光の基盤づくり強化
サステナブルな取り組みの推進とレジリエンスの向上
市民が地域に誇りや愛着をもつことができる取り組みの推進
DMOの体制強化と観光地域づくりの推進

宿泊税の活用

一般財源を活用した既存の観光振興策に加え、新たな財源として宿泊税も活用し、①旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成、②宿泊・連泊を促進するための誘客強化、③観光の基盤である宿泊事業者への支援の3つの視点のもと、新規・拡充事業を推進することで、さらなる交流人口の拡大を図り、地域経済の持続的な成長を図っていきます。

31